

特色ある取組

研究のDXのカギとなるデータ利活用のためには、統計的手法を駆使して大量のデータを分析・解析するための人材が不可欠です。一方、大学における統計分野の専門教員の不足は深刻であり、質の高い多くの専門教員の育成が喫緊の課題となっています。

このため、情報・システム研究機構では、統計数理研究所が「中核機関」となり、全国21の大学等を「参画機関」とするコンソーシアムを設立し、「統計エキスパート人材育成プロジェクト」(文部科学省補助金事業)を推進しています。

統計数理研究所は中核機関として、5年間の事業期間中に2年間の「大学統計教員育成研修」を3回実施することで、多様な学術分野の若手研究者(助教、ポスドク等)を、最新の統計教育や統計的研究指導を行うことのできる大学教員へと育成します。参画機関の大学等では、所属する若手研究者をこの育成研修に派遣するとともに、中核機関の支援や当該若手研究者との連携の下、参画機関内に統計エキスパートを育成するシステムを構築・運用します。

期待できる成果・評価 など

コンソーシアムの活動を通じて、今後5年間に少なくとも30名の大学統計教員を、また、これらの育成された大学統計教員が所属する各大学等における人材育成を通じて、10年間で約500名の大学院修士水準の統計エキスパートを育成することを目指しています。

参考URL

「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」の設立について

<https://www.ism.ac.jp/ura/press/ISM2021-08.html>

令和3年度文部科学省統計エキスパート人材育成事業の公募について

https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1421775_00006.htm

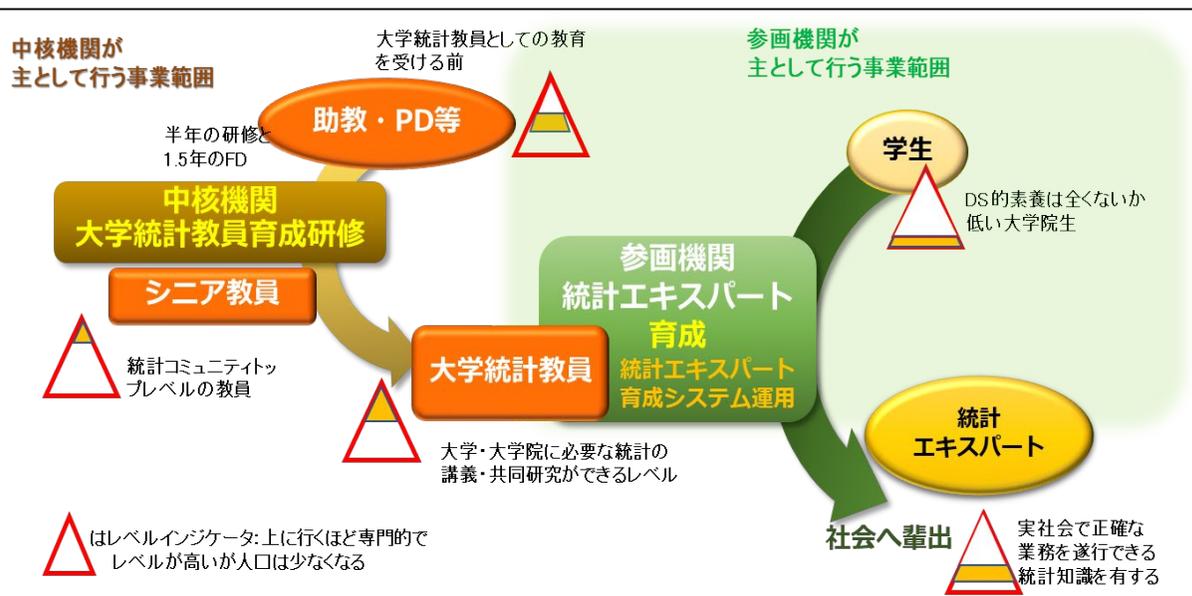


図: コンソーシアムが目指す統計エキスパート育成エコシステム